



2020年3月期 第2四半期決算短信(日本基準)(連結)

2019年11月5日

上場会社名 セーレン株式会社

上場取引所 東

コード番号 3569 URL <http://www.seiren.com>

代表者 (役職名) 代表取締役会長兼最高経営責任者 (氏名) 川田 達男

問合せ先責任者 (役職名) 取締役執行役員 経営企画本部長 (氏名) 川田 浩司

TEL 0776-35-2111

四半期報告書提出予定日 2019年11月13日

配当支払開始予定日

2019年11月29日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2020年3月期第2四半期の連結業績(2019年4月1日～2019年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

| | 売上高 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 親会社株主に帰属する四半期純利益 | |
|---------------|--------|-----|-------|-----|-------|-----|------------------|------|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % |
| 2020年3月期第2四半期 | 60,817 | 1.3 | 5,078 | 0.2 | 5,371 | 4.7 | 3,772 | 12.0 |
| 2019年3月期第2四半期 | 60,055 | 8.5 | 5,070 | 0.7 | 5,635 | 7.1 | 4,285 | 26.8 |

(注) 包括利益 2020年3月期第2四半期 2,936百万円 (16.5%) 2019年3月期第2四半期 2,520百万円 (28.9%)

| | 1株当たり四半期純利益 | 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益 |
|---------------|-------------|--------------------|
| | 円 銭 | 円 銭 |
| 2020年3月期第2四半期 | 67.56 | 67.06 |
| 2019年3月期第2四半期 | 71.67 | 71.21 |

(2) 連結財政状態

| | 総資産 | 純資産 | 自己資本比率 | 1株当たり純資産 |
|---------------|---------|--------|--------|----------|
| | 百万円 | 百万円 | % | 円 銭 |
| 2020年3月期第2四半期 | 125,785 | 76,240 | 59.7 | 1,353.00 |
| 2019年3月期 | 126,747 | 75,531 | 58.5 | 1,322.79 |

(参考) 自己資本 2020年3月期第2四半期 75,044百万円 2019年3月期 74,195百万円

2. 配当の状況

| | 年間配当金 | | | | |
|--------------|--------|--------|--------|-------|-------|
| | 第1四半期末 | 第2四半期末 | 第3四半期末 | 期末 | 合計 |
| | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 |
| 2019年3月期 | | 15.00 | | 20.00 | 35.00 |
| 2020年3月期 | | 18.00 | | | |
| 2020年3月期(予想) | | | | 18.00 | 36.00 |

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2020年3月期の連結業績予想(2019年4月1日～2020年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

| | 売上高 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 親会社株主に帰属する当期純利益 | | 1株当たり当期純利益 |
|----|---------|-----|-------|------|--------|------|-----------------|------|------------|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 円 銭 |
| 通期 | 118,000 | 3.8 | 9,500 | 10.3 | 10,000 | 13.6 | 7,000 | 14.9 | 125.76 |

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注)詳細は、添付資料10ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

以外の会計方針の変更 : 無

会計上の見積りの変更 : 無

修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)

| | | | |
|------------|--------------|----------|--------------|
| 2020年3月期2Q | 64,633,646 株 | 2019年3月期 | 64,633,646 株 |
|------------|--------------|----------|--------------|

期末自己株式数

| | | | |
|------------|-------------|----------|-------------|
| 2020年3月期2Q | 9,168,763 株 | 2019年3月期 | 8,543,353 株 |
|------------|-------------|----------|-------------|

期中平均株式数(四半期累計)

| | | | |
|------------|--------------|------------|--------------|
| 2020年3月期2Q | 55,829,418 株 | 2019年3月期2Q | 59,799,970 株 |
|------------|--------------|------------|--------------|

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。なお、業績予想に関する事項等については、添付資料4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

【添付資料】

○添付資料の目次

| | |
|-----------------------------------|----|
| 1. 当四半期決算に関する定性的情報..... | 2 |
| (1) 経営成績に関する説明..... | 2 |
| (2) 財政状態に関する説明..... | 3 |
| (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明..... | 4 |
| 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記..... | 5 |
| (1) 四半期連結貸借対照表..... | 5 |
| (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書..... | 7 |
| 四半期連結損益計算書 | |
| 第2四半期連結累計期間..... | 7 |
| 四半期連結包括利益計算書 | |
| 第2四半期連結累計期間..... | 8 |
| (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書..... | 9 |
| (4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項..... | 10 |
| (継続企業の前提に関する注記)..... | 10 |
| (株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)..... | 10 |
| (当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)..... | 10 |
| (四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)..... | 10 |
| (セグメント情報等)..... | 11 |

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間における日本経済は、企業収益や雇用環境の改善を背景に、景気は緩やかな回復基調が続きました。世界経済では、米国で景気が堅調に推移する一方、米中貿易摩擦の影響による中国経済の減速や、先行き不透明な欧州経済など、引き続き注視が必要な状況にあります。

そのような環境のなか、当社グループでは、「21世紀型企業への変革！」を中期方針に掲げ、変化し続ける経営環境においても常にお客様のニーズに応え、安定した収益確保と継続的な成長を果たすため、「新規事業の創出」と“グローバル事業の拡大”を柱とした事業戦略を推進しております。併せて、企業の潜在力である人材力、開発力、環境対応力を高める経営を継続し、企業体質の強化に取り組んでおります。

当第2四半期の連結業績は、売上高 608 億 17 百万円（前年同期比 1.3%増）、営業利益 50 億 78 百万円（同 0.2%増）、経常利益 53 億 71 百万円（同 4.7%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益 37 億 72 百万円（同 12.0%減）となりました。

[セグメント別の業績概況]

(車輛資材事業)

国内における新車販売は比較的堅調を維持し、引き続き“革を超える新素材”「クオーレ®」や夏冬快適素材「クオーレモジュレ®」などの高付加価値商品が好調に推移しましたが、販売車種の一部打ち切りや商品構成の変化、ならびに顧客の海外生産増加の影響を受け、国内事業全体では、前年同期比で減収・減益となりました。

海外では、前年度、大幅な受注増に対し生産能力の急拡大に取り組んでおりましたメキシコ工場において、課題であった生産効率と歩留まりの改善が進み、第1四半期より営業利益が黒字転換し、利益改善が図られました。しかしながら一方で、米中貿易摩擦による米国の追加関税ならびに中国自動車販売市場の減速、さらに原材料価格高騰の影響を受け、海外事業全体では、前年同期比で営業利益が微増となりました。

当事業の売上高は 353 億 8 百万円（前年同期比 2.5%減）、営業利益 29 億 1 百万円（同 10.4%減）となりました。

(ハイファッション事業)

近年、アパレル業界や消費者の中で、売れ残り在庫の廃棄に対する問題意識が高まるなか、糸から縫製までのグループ一貫機能により、差別化商品を在庫レスで製造する独自のViscotecs®システムに注目が集まっております。このような社会環境のもと、ファッション向けBtoC事業においては、パーチャル試着で多様な消費者ニーズに対応し“あなただけの一着”をお届けする「Viscotecs make your brand®」の事業展開に先行費用を投じております。当期より、ファッション向けBtoB事業においても、同様のビジネスモデルでの店舗販売がスタートしました。

スポーツ向けBtoB事業においては、当社グループの差別化原系と加工技術を駆使した差別化素材の販売が堅調に推移しました。

しかしながら、アパレル市場全体は依然厳しい状況にあり、セグメント全体では、前年同期比で減収・減益となりました。

当事業の売上高は123億85百万円（前年同期比2.4%減）、営業利益は4億43百万円（同3.3%減）となりました。

(エレクトロニクス事業)

繊維と金属の複合化技術により差別化を高めた導電性素材「プラット®」は、付加価値を高めた部品化・製品化販売で、スマートフォン、タブレットやゲーム機への採用拡大が進んでおります。また、ビスコテックス・システム販売事業では、システム本体およびサプライ商品が売上高を伸ばしました。K Bセーレン(株)では、スーパー繊維の「ゼクシオン®」の用途展開の拡大が順調に進んでおります。

なお、前連結会計年度末に連結子会社となったケイ・エス・ティ・ワールド(株)の業績が、新たに当エレクトロニクスセグメントに加わっております。

当事業の売上高は 55 億 92 百万円（前年同期比 42.9%増）、営業利益は 10 億 90 百万円（同 12.5%増）となりました。

（環境・生活資材事業）

新設住宅着工戸数が弱含みで推移するなか、当セグメント主力のハウジング資材事業では、優れた省エネ性能をもつ遮熱型ハウスラップ材や遮熱・高止水型ルーフィング材をはじめ、当社グループ独自の差別化商品群が売上高を伸ばしました。

環境・土木分野においては、独自の繊維技術により商品化した防草シート「グラスガード®」の販路拡大が進み、健康・介護事業においては、快適機能性を高めた新製品が売上高を伸ばしました。

当事業の売上高は 42 億 20 百万円（前年同期比 9.5%増）、営業利益は 4 億 60 百万円（同 4.6%増）となりました。

（メディカル事業）

当社の独自技術で商品化した、繭から生まれた天然成分「ピュアセリシン TM」配合のコモエース化粧品は、自社サイトに加え、百貨店やセレクトショップなどの常設店舗での販売強化を進め、順調に売上高を伸ばしました。

卓越した消臭機能を持つアンダーウェアシリーズ「デオエスト®」は、顧客ニーズにマッチした新商品投入とプロモーションに注力し、販売拡大を進めております。

医療資材分野においては、KBセーレン(株)の「エспанシオーネ®」（特殊原糸）とグループ一貫機能を活かした差別化商品が売上高を伸ばしましたが、薬価改定の影響等により、一部の医療用製品において売上高の減少がありました。

当事業の売上高は 28 億 58 百万円（前年同期比 2.8%減）、営業利益は 7 億 11 百万円（同 31.5%増）となりました。

（その他の事業）

株ナゴヤセーレンの不動産賃貸管理事業やセーレン商事(株)の保険代理業が堅調に推移しました。

当事業の売上高は 4 億 52 百万円（前年同期比 2.1%増）、営業利益は 2 億 63 百万円（同 4.9%減）となりました。

（2）財政状態に関する説明

当第 2 四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末と比較して 9 億 61 百万円減少の 1,257 億 85 百万円となりました。流動資産は、現金及び預金が増加した一方で受取手形及び売掛金や棚卸資産が減少し、前連結会計年度末と比較して 5 億 38 百万円の減少となりました。固定資産は、主に海外子会社の財務諸表の換算レートが円高になったことなどにより、前連結会計年度末と比較して 4 億 23 百万円減少しました。負債の部は、借入金の純増がありましたが、支払手形及び買掛金の減少などにより、16 億 69 百万円減少し、495 億 45 百万円となりました。純資産は、自己株式の取得や為替換算調整勘定の変動がありましたが、利益剰余金の増加などにより、全体で 7 億 8 百万円増加し、762 億 40 百万円となりました。

キャッシュ・フローの状況につきましては、当第 2 四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物の残高は 165 億 52 百万円となり、前連結会計年度末より 43 億 64 百万円増加しました。

「営業活動によるキャッシュ・フロー」は、78 億 53 百万円の収入（前年第 2 四半期連結累計期間は 29 億 99 百万円の収入）となりました。これは主に、税金等調整前四半期純利益 53 億 8 百万円、売上債権の減少 26 億 75 百万円、減価償却費 25 億 24 百万円などによるものです。

「投資活動によるキャッシュ・フロー」は、11 億 99 百万円の支出（前年第 2 四半期連結累計期間は 25 億 60 百万円の支出）となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出 17 億 52 百万円などによるものです。

「財務活動によるキャッシュ・フロー」は、20億88百万円の支出（前年第2四半期連結累計期間は21億80百万円の支出）となりました。これは主に、自己株式の取得による支出9億99百万円、配当金の支払による支出11億31百万円などによるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期の業績予想につきまして、当第2四半期の業績が想定を上回ったことに伴い、2019年8月2日に発表した業績予想を上方修正しております。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

| | 前連結会計年度 (2019年3月31日) | 当第2四半期連結会計期間 (2019年9月30日) |
|---------------|-------------------------|------------------------------|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | | |
| 現金及び預金 | 14,122 | 17,577 |
| 受取手形及び売掛金 | 29,405 | 26,675 |
| 有価証券 | — | 200 |
| 商品及び製品 | 11,749 | 11,447 |
| 仕掛品 | 2,935 | 2,876 |
| 原材料及び貯蔵品 | 5,394 | 4,999 |
| その他 | 3,457 | 2,756 |
| 貸倒引当金 | △11 | △17 |
| 流動資産合計 | 67,052 | 66,514 |
| 固定資産 | | |
| 有形固定資産 | | |
| 建物及び構築物（純額） | 22,340 | 21,784 |
| 機械装置及び運搬具（純額） | 10,878 | 10,318 |
| 工具、器具及び備品（純額） | 592 | 617 |
| 土地 | 11,709 | 11,894 |
| リース資産 | 421 | 369 |
| 建設仮勘定 | 618 | 1,469 |
| 有形固定資産合計 | 46,560 | 46,454 |
| 無形固定資産 | | |
| のれん | 1,286 | 1,208 |
| その他 | 3,097 | 2,983 |
| 無形固定資産合計 | 4,383 | 4,192 |
| 投資その他の資産 | | |
| その他 | 8,931 | 8,803 |
| 貸倒引当金 | △181 | △179 |
| 投資その他の資産合計 | 8,750 | 8,623 |
| 固定資産合計 | 59,694 | 59,270 |
| 資産合計 | 126,747 | 125,785 |
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | | |
| 支払手形及び買掛金 | 17,804 | 16,153 |
| 短期借入金 | 3,256 | 1,667 |
| 未払法人税等 | 1,413 | 1,216 |
| 賞与引当金 | 1,329 | 1,346 |
| その他 | 5,008 | 4,910 |
| 流動負債合計 | 28,812 | 25,293 |
| 固定負債 | | |
| 長期借入金 | 14,075 | 15,936 |
| 役員退職慰労引当金 | 160 | 160 |
| 退職給付に係る負債 | 6,055 | 6,132 |
| その他 | 2,110 | 2,022 |
| 固定負債合計 | 22,402 | 24,251 |
| 負債合計 | 51,215 | 49,545 |

(単位：百万円)

| | 前連結会計年度 (2019年3月31日) | 当第2四半期連結会計期間 (2019年9月30日) |
|---------------|-------------------------|------------------------------|
| 純資産の部 | | |
| 株主資本 | | |
| 資本金 | 17,520 | 17,520 |
| 資本剰余金 | 16,812 | 16,804 |
| 利益剰余金 | 49,610 | 52,273 |
| 自己株式 | △10,615 | △11,537 |
| 株主資本合計 | 73,327 | 75,061 |
| その他の包括利益累計額 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 2,086 | 2,170 |
| 為替換算調整勘定 | △1,278 | △2,202 |
| 退職給付に係る調整累計額 | 59 | 14 |
| その他の包括利益累計額合計 | 867 | △16 |
| 新株予約権 | 472 | 478 |
| 非支配株主持分 | 863 | 717 |
| 純資産合計 | 75,531 | 76,240 |
| 負債純資産合計 | 126,747 | 125,785 |

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

| | 前第2四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年9月30日) | 当第2四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年9月30日) |
|------------------|---|---|
| 売上高 | 60,055 | 60,817 |
| 売上原価 | 44,397 | 44,644 |
| 売上総利益 | 15,657 | 16,173 |
| 販売費及び一般管理費 | 10,586 | 11,094 |
| 営業利益 | 5,070 | 5,078 |
| 営業外収益 | | |
| 受取利息 | 112 | 111 |
| 受取配当金 | 78 | 70 |
| 為替差益 | 132 | 50 |
| 受取補償金 | 133 | 63 |
| その他 | 138 | 81 |
| 営業外収益合計 | 595 | 377 |
| 営業外費用 | | |
| 支払利息 | 13 | 54 |
| その他 | 17 | 31 |
| 営業外費用合計 | 31 | 85 |
| 経常利益 | 5,635 | 5,371 |
| 特別利益 | | |
| 固定資産売却益 | 3 | 2 |
| 投資有価証券売却益 | 341 | — |
| 特別利益合計 | 345 | 2 |
| 特別損失 | | |
| 固定資産処分損 | 3 | 8 |
| 投資損失引当金繰入額 | — | 57 |
| 特別損失合計 | 3 | 65 |
| 税金等調整前四半期純利益 | 5,977 | 5,308 |
| 法人税等 | 1,675 | 1,509 |
| 四半期純利益 | 4,302 | 3,798 |
| 非支配株主に帰属する四半期純利益 | 16 | 26 |
| 親会社株主に帰属する四半期純利益 | 4,285 | 3,772 |

四半期連結包括利益計算書
第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

| | 前第2四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年9月30日) | 当第2四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年9月30日) |
|-----------------|---|---|
| 四半期純利益 | 4,302 | 3,798 |
| その他の包括利益 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 202 | 84 |
| 為替換算調整勘定 | △1,940 | △901 |
| 退職給付に係る調整額 | △43 | △44 |
| その他の包括利益合計 | △1,781 | △862 |
| 四半期包括利益 | 2,520 | 2,936 |
| (内訳) | | |
| 親会社株主に係る四半期包括利益 | 2,530 | 2,903 |
| 非支配株主に係る四半期包括利益 | △9 | 32 |

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

| | 前第2四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年9月30日) | 当第2四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年9月30日) |
|----------------------------|---|---|
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 税金等調整前四半期純利益 | 5,977 | 5,308 |
| 減価償却費 | 2,321 | 2,524 |
| 固定資産処分損益(△は益) | △0 | 5 |
| 投資有価証券売却損益(△は益) | △341 | — |
| 貸倒引当金の増減額(△は減少) | 0 | 5 |
| 投資損失引当金の増減額(△は減少) | — | 57 |
| 賞与引当金の増減額(△は減少) | △26 | 14 |
| 退職給付に係る負債の増減額(△は減少) | 46 | 8 |
| 受取利息及び受取配当金 | △191 | △182 |
| 支払利息 | 13 | 54 |
| 為替差損益(△は益) | 28 | △115 |
| 売上債権の増減額(△は増加) | △1,471 | 2,675 |
| たな卸資産の増減額(△は増加) | △1,935 | 779 |
| 仕入債務の増減額(△は減少) | 820 | △1,753 |
| 未払消費税等の増減額(△は減少) | △95 | 21 |
| その他 | △625 | △53 |
| 小計 | 4,519 | 9,349 |
| 利息及び配当金の受取額 | 191 | 181 |
| 利息の支払額 | △14 | △54 |
| 法人税等の支払額又は還付額(△は支払) | △1,697 | △1,623 |
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | 2,999 | 7,853 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 有形固定資産の取得による支出 | △2,990 | △1,752 |
| 有形固定資産の売却による収入 | 7 | 4 |
| 有価証券及び投資有価証券の取得による支出 | △409 | △321 |
| 定期預金の純増減額(△は増加) | 969 | 909 |
| その他 | △137 | △39 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | △2,560 | △1,199 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 短期借入金の純増減額(△は減少) | △350 | △950 |
| 長期借入れによる収入 | — | 2,600 |
| 長期借入金の返済による支出 | △858 | △1,378 |
| 自己株式の取得による支出 | △0 | △999 |
| 配当金の支払額 | △896 | △1,121 |
| 非支配株主への配当金の支払額 | △74 | △9 |
| 連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の取得による支出 | — | △178 |
| その他 | — | △50 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | △2,180 | △2,088 |
| 現金及び現金同等物に係る換算差額 | △641 | △336 |
| 現金及び現金同等物の増減額(△は減少) | △2,382 | 4,228 |
| 現金及び現金同等物の期首残高 | 13,222 | 12,187 |
| 新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額 | — | 136 |
| 現金及び現金同等物の四半期末残高 | 10,839 | 16,552 |

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、2018年11月8日開催の取締役会において、会社法第165条第3項の規定により読み替えて適用される同法第156条の規定に基づき、自己株式を取得することを決議し、取得株式数5,000,000株、総額10,000百万円を上限として2018年11月9日から2019年11月8日の期間で自己株式の取得を進めています。これにより当第2四半期連結累計期間において自己株式を686,900株取得しました。新株予約権の行使による自己株式の減少がありましたが、この結果、当第2四半期連結累計期間において自己株式が921百万円増加し、当第2四半期連結会計期間末において自己株式が11,537百万円となっております。

(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)

該当事項はありません。

なお、特定子会社の異動には該当しておりませんが、前連結会計年度において非連結子会社であったKBセーレン・D T Y(株)および広州特拓汽車内飾有限公司(中国)は、重要性が増したため、第1四半期連結会計期間より連結の範囲に含めております。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

| | 報告セグメント(注)1 | | | | | | その他 (注)1 | 合計 | 調整額 (注)2 | 四半期連 結損益計 算書計上 額(注)3 |
|---------------------------|-------------|--------------|--------------|-------------|-------|--------|-------------|--------|-------------|-------------------------------|
| | 車両資材 | ハイファ ッション | エレクト ロニクス | 環境・ 生活資材 | メディカル | 計 | | | | |
| 売上高 | | | | | | | | | | |
| 外部顧客への 売上高 | 36,211 | 12,691 | 3,912 | 3,854 | 2,941 | 59,611 | 443 | 60,055 | — | 60,055 |
| セグメント間の 内部売上高又は 振替高 | — | 5 | 209 | 158 | 1 | 375 | 377 | 752 | △752 | — |
| 計 | 36,211 | 12,696 | 4,122 | 4,013 | 2,943 | 59,987 | 820 | 60,807 | △752 | 60,055 |
| セグメント利益 | 3,237 | 458 | 969 | 440 | 541 | 5,646 | 276 | 5,923 | △852 | 5,070 |

II 当第2四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

| | 報告セグメント(注)1 | | | | | | その他 (注)1 | 合計 | 調整額 (注)2 | 四半期連 結損益計 算書計上 額(注)3 |
|---------------------------|-------------|--------------|--------------|-------------|-------|--------|-------------|--------|-------------|-------------------------------|
| | 車両資材 | ハイファ ッション | エレクト ロニクス | 環境・ 生活資材 | メディカル | 計 | | | | |
| 売上高 | | | | | | | | | | |
| 外部顧客への 売上高 | 35,308 | 12,385 | 5,592 | 4,220 | 2,858 | 60,365 | 452 | 60,817 | — | 60,817 |
| セグメント間の 内部売上高又は 振替高 | — | 12 | 108 | 51 | 2 | 175 | 458 | 633 | △633 | — |
| 計 | 35,308 | 12,398 | 5,700 | 4,271 | 2,861 | 60,540 | 910 | 61,451 | △633 | 60,817 |
| セグメント利益 | 2,901 | 443 | 1,090 | 460 | 711 | 5,607 | 263 | 5,870 | △792 | 5,078 |

(注) 1. 各報告セグメント区分の主な製品等は下記のとおりであります。

- (1) 車両資材……………自動車・鉄道車輛等内装材(シート材、エアバッグ、加飾部品)
- (2) ハイファッション……………各種衣料製品、衣料用繊維加工
- (3) エレクトロニクス……………導電性素材、工業用ワイピングクロス、ビスコテックス・システムおよびサブライ、電子機器、シリコンウエーハの成膜加工等
- (4) 環境・生活資材……………建築用資材、インテリア用資材、健康・介護商品、環境・土木資材
- (5) メディカル……………医療用資材、化粧品、水処理用資材

なお、「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ソフトウェアの開発及び販売、保険代理業、人材派遣事業、不動産賃貸管理事業等を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額には、各報告セグメントに配分していない全社費用(前第2四半期連結累計期間860百万円、当第2四半期連結累計期間829百万円)が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない総務部門などの管理部門に係る費用であります。
3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。